

# 私も若槻の住民です



若槻地区の皆様、私は若槻東条にある齊田山薬師寺で副住職を務める三澤 志道(みさわしどう)と申します。この寺に住み込みの尼僧になって丸二年。皆様にはたいへんお世話になり、地区の一住民としても永住の気持ちを固めております。

## 紆余曲折の人生

私がなぜ帰依したか—仏門に入るまでの“人生行路”をお話したいと思います。と、言いますのは、尼僧になったのは52歳の時、それまでは世の中の辛酸を舐めるような人生が多かったのです。さまざまな職業を経験しました。最初は歌手でした。この道で一旗揚げようとプロになり、当時全盛だった村田英雄、三波春夫、こまどり姉妹などの前座で歌ったこともあります。しかしこれも長くは続かず、後はスナック、クラブ、居酒屋など転々と店の経営も。結婚し四人の子も授かりました。



## 死線を越え仏道に

夫と死別し自分は肝硬変を患い寝たきり。悶々としている病床で突然、空に二頭の竜が現れたのを見たのです。なかなか信じてもらえない話ですが本当です。竜と出会った後、病気は嘘のように良くなり、かかっていた病院の医師も驚くほど。

竜との出会いを境に健康を回復してから「後の人生は人のために役立つことを」と決めました。初めにお話したように52歳で名古屋市にある曹洞宗の学校「愛知専門尼僧堂」に入り出家しました。私のように中年を過ぎて尼僧になる人はいませんでした。仏教の知識もなく法衣さえ持たず着の身着たまままで尼僧堂にお世話になったのですから、周囲からはいぶかられました。

お経、尼僧としての身の処し方など尼僧堂の4年間の勉強と修行は辛い毎日でした。教育が終わってからは実際の訓練です。名古屋から始まり静岡県、岐阜県、北海道など6カ所のお寺で尼僧の実体験をしました。

## 人々のため寺を開放へ

平成21年、薬師寺の住職から尼僧堂の先生を通じて話をいただき、当地へお仕えすることになりました。日常は葬儀、法事などご家庭を訪問し忙しくしておりますが、今、一番の念願は薬師寺内に『婦人の会』(仮称)を設け、地区内の誰もが自由に入出入りできる時間と空間の場を作りたいと願っています。地区内のご婦人にお寺を開放することですね。出来れば来年には準備を始め、実現したいです。法話とは別に私の曲折した人生で経験したこと学んだことなどもお話しし、皆様の生き方に役立ててもらえれば本望です。

この広報紙をお読みになって、関心をお持ちの方は電話(026-295-0040)をしてください。皆様とともに日々精進する所存です。

【メモ】曹洞宗齊田山薬師寺。開山は慶長13年(1608)7月。住職は歴代尼僧が務めており、まれなケース。現在は十世・青木悦定(あおき・えつじょう)住職。

(構成 広報委員長)